

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	Academic Spoken English I		
英文授業科目名	Academic Spoken English I		
開講年度	2007年度	開講年次	1年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	電子工学科 量子・物質工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	酒井 邦秀		
居室	東1 - 716		

公開E-Mail	授業関連Webページ
sakaikunihide@bunka.uec.ac.jp	tadoku.org www.seg.co.jp/sss/bbs/index.html

<p>【主題および達成目標】</p> <p>言語文化科目（英語）の全体的な目標については「学修要覧」の122ページをご覧ください。みなさんが critical thinking を理解し、活用できること、英語をみずから身につけようとする意欲を養い、その方法を探る手助けをするために、以下の主題と達成目標を設けます。</p> <p>(a) 主題：ゼロからの多聴・多読・シャドーイングによる英文の大量吸収 ネイティブ・スピーカーの幼児が読み聞かせしてもらったり自分で読める絵本からはじめて、少しずつレベルを上げていきます。英語を日本語を通すことなく、日本語とおなじように吸収できるようにします。</p> <p>(b) 達成目標：概括的な目標としては、英語獲得に関してひとりひとりがみずからの学習目的と過程を意識して、それを客観的に批判的に評価しつつ、次の学習ステップを選べること。具体的な目標としては、そうした学習姿勢を土台にして、</p> <p>* 夏期休業までにネイティブ・スピーカーの小学校低学年が読み聞きするレベルの英文を直接、日本語を介さずに吸収できること、また</p> <p>* 多聴・シャドーイングにより、英語特有の音を獲得し、毎日の暮らしの一部の状況について、その状況に適切な文（たとえば What a mess! He talked and talked.など）で対応できることを目標にします。</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>ありません。むしろ中学校、高等学校、塾、予備校などで得た知識は、ほとんどの場合邪魔になります。こどものように素直な気持ちで、ゼロから出発しましょう。その方がはるかに早く、楽しく、楽に英語が獲得できます。</p>

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

ありません。

【教科書等】

いわゆる教科書などはありません。多聴・多読・シャドーイング用の素材は酒井が用意します。ただし、酒井の用意する本は毎年かなりの率で消えていきます。そこで、補充用に1学期につき1000円を集め、酒井の奨学寄付金講座に寄付し、それを多聴多読素材及び機器購入に当てます。収支は大学の会計課が管理し、収支に関する書類はみなさんが見られるようにします。

なお、この授業の参考書としては

「どうして英語が使えない? 学校英語につける薬」酒井邦秀、ちくま学芸文庫

「快読100万語! ペーパーバックへの道」酒井邦秀、ちくま学芸文庫

「教室で読む英語100万語」酒井邦秀、神田みなみ、大修館書店

があります。

【授業内容とその進め方】

授業と課題の両方が重要です。

* 授業では「聞く・読む・聞きかつ読む・聞きながらシャドーイングする」の作業を学生ひとりひとりが自由に組み合わせて、それぞれに大量に聞き、読み、発声します。酒井はひとりひとりのそばにいて、様子を見聞きし、対話によってその人の次のステップを助言します。週を重ねるうちに少しずつ自分で次のステップを選べるようになることが目標です。

* 課題では、授業開始後数週間したら家に本や音源を持って帰ってもらいます。読む聞くは強制ではありません。時間があったら読む聞くをしてきてください。課題の消化具合は、「読まなかった、聞かなかった」でもいいのですが、かならず記録手帳に記入してもらい、授業中に酒井が助言するための大切な資料にします。

なお、通常の聞く・読むの作業と違う点が三つあります。それは多聴・多読三原則といって、

1. 辞書を捨てる
2. わからないところは飛ばす
3. 話がわからなくなったら途中でどんどんやめる

というものです。一言でいえば、日本語に訳さずに楽しく聞き、読みましょうということです。この三原則は厳しく守ってもらいます。

また、授業中は厳しい第四原則が適用されます。

4. 周りの人の邪魔にならないかぎり何をしてもよい

です。これも厳しく守ってもらいます。

なお、さらに「通常の英語の授業」とちがう点が三つあります。つまり、先生は

1. 教えない
2. おしつけない
3. テストしない

のです。したがって、たいていの質問には「そのうちわかるよ」と答えます。レベルを無理に上げることは奨励しません。そして、聞き終わった、あるいは読み終わった本について、単語を覚えているかとか、どのくらいちゃんと理解しているかといった「チェック」はしません。酒井からたずねることは基本的に「おもしろかったかどうか」だけです。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

授業内容からわかるように、この授業は一斉授業ではなく、ひとりひとりが自分の意思で英語に親しんでいくので、評価基準は目標達成度を二つの基準だけで測ります。

1. 多聴あるいは多読あるいはシャドーイングにどれだけの時間を費やしたか
2. 学期末に読解、文法、語彙の比較的よい尺度とされているCloze testを課し、どれだけ正解したか

この二つをマトリックスにして、区域を分け、区域ごとに成績とします。

なお、2. のcloze testは準備は不可能なので、多読・多聴・シャドーイングは試験を気にすることなく楽しむことが可能です。

なお、学年末1月のTOEICをかならず受験し、スコア・シートを提出することが成績を出すための必須条件です。ただし、点数によって成績が左右されることはありません。

【オフィスアワー：授業相談】

課題の本を読み終わったら研究室前の本棚に本を取り替えに来てください。その際に研究室の戸を叩いて、様子を聞かせてください。

月曜日の午後
火曜日の午前午後
水曜日の午後から6限
木曜日の午後
金曜日の午後

【学生へのメッセージ】

この授業をいちばん受けてほしい学生は「英語も英語の授業も大嫌いだ、しかし楽な方法があれば英語は身に付けたい」と考えている人たちです。

ただ単位ほしさだけで来てもかまいません。辞書、文法書、問題集、入学までの英語と英語に関する記憶は捨ててください。捨てられればかならず英語と新たな関係を作れます。

【その他】

tadoku.orgに来てください。